

日

光

市

I Love you



手話を楽しんで覚えてほしいDooo

左から柏木さん、竹澤さん、玲子さん、亮樹さん。手話で「日光市ラブ」と表現

かめやまりようじゆ れいこ
亀山亮樹さん・玲子さん(市内在住ろう者夫妻・手話講師)
 たげざわたかこ かしわぎあつこ
竹澤貴子さん(手話通訳士) **柏木敦子さん**(手話通訳者)

「竹」：手話の体験教室が開催されたことで、市民の方の「知りたい」「やってみたい」などの関心が、実践に結びつきました。

「玲」：制定後、各公民館でも手話体験教室が行われ、「地元で体験ができてうれしい」と喜んでいらっしゃる地域で指導していますが、手話を身近に感じてくれる市民の方が増えたことがうれしいです。

「竹」：聞こえない人がいるから通訳を付けるのではなく、聞こえない人がいる・いないにかかわらず、公共機関や行政窓口、イベントなどに通訳が付くことが当たり前

「亮」：日光市は観光都市。いろいろな人が来る中で、市民みんなが簡単な手話ができる、おもいやりのある市になつてほしいと思います。
 「相」：現在、市内に通訳士・者が数人しかいないので、増やしたいです。

「手話は他の言語と同じ。方言もある。楽しんで覚えてほしい」
 手話を学び、手話で会話するのが理想ですが、まずは聞こえないことを理解し、手話以外の方法(筆談や身ぶりなど)でコミュニケーションを取ろうとする気持ちが大切だと実感しました。

「亮」：私たちはコミュニケーションを取りたいと思っているので、構えずに気軽に話し掛けてほしいですね。
 「玲」：聞こえないということは、情報を得にくいということです。特に災害時は目で見える情報がないと、とても不安だということを理解してほしいです。
 「竹」：1人でも多くの方が手話を覚えよう、理解しようとしてくれたらうれしいですね。怖がらずに自分の思いを伝えようとする気持ちが大切です。必ず伝わります。

条例制定前と変わったことは？

今月は、公民館などで手話講師として活動する、**亀山亮樹(亮)・玲子(玲)**夫妻と講演会やイベントなどの手話通訳で活躍する**竹澤さん(竹)**と**柏木さん(柏)**にお話を伺いました。

今後の抱負や夢は？

「相」：制定後は、学校に手話指導に行く機会が多くなりました。子どもものときに、ろう者や手話に親しむことで素直に理解が深まります。そのためにも手話に出会う機会が増えることは重要だと思います。今までは「手話＝福祉」のイメージが強かったのですが、「手話＝言語」と捉えることで、教育の面での手話の必要性にも目が向けられるようになったと感じています。

市民の方へ…

なるといいですね。



手話教室で受講者に手話を教える玲子さん

注目! 手話体験教室や講習会の詳細については、広報にっこう5月号4ページと今月号の情報ナビ32ページをご覧ください。

社会福祉課 ☎21-5174